
実践報告

楽しくガイドするためのグッズ作成

Making guide tool to please a visitor

神戸 百合子*

Yuriko Kanbe

ジオパークとの出会い

2011年9月、下仁田町が日本ジオパークに認定されました。これを機に2014年に発足した「日本ジオパーク下仁田応援団」(現・下仁田ジオパークの会)に加入し活動に参加しました。

しかし、当時の私といえば、なぜ下仁田町がジオパークに認定されたのか、そもそもジオパークとは何なのかさえもはっきり理解していなかったと思います。

子どものころから見ていた青岩や御岳は「あって当たり前」で、毎日目にしている景色でしたし、川原の石はただの石ころでしかありませんでした。

また、「クリッペ」という言葉は小学生のころから「下仁田教育かるた」で知ってはいましたが、下仁田町が誇れる日本でも希有な地質とは思っていませんでした。

ジオパークガイド活動

ジオパーク活動が活発化する中でジオパークガイドが必要となり、なかば半強制的にガイド講習会を受講することになりました。受講当初は講師の方々のお話もなかなか理解できず、ガイドになるなんて「無理、無理、無理」と感じていました。

しかし回を重ね「逆転層」や「しゅう曲」「下仁田大地の生い立ち」などを学ぶうちに、「なぜ」「どうして」を知りたいと思う私の好奇心が頭をもたげ始めました。そして「なぜ」「どうして」を知るためにいろいろな本を読み進めるうちに日本列島の成り立ちを知ることから始めなければ、と考えるようになりました。

どうにか認定ガイドとなり、町を訪れる方々を案内するようになると、私のガイドはわかりやすいのか、理解していただけているのだろうか、という心配が生まれてきました。「また下仁田町に来てみたい」と思ってもらえているのか、どうしたらもっとわかりやすく、理解してもらえるガイドができるのだろうか、言葉だけでは伝えきれない大地の変動や日本列島の成り立ちを、わかりやすく楽しく解説するために、何かよい方法はないものかと考えるようになってきました。しかし、何をどうしたらいいのかは暗中模索状態でした。

ガイドグッズ作成-1

そんな時に参加したある全国大会の分科会において、さまざまな地質現象をわかりやすく説明する方法について話し合っているときに、ある方が次のように説明していました。「日本列島は付加体ででき

ている。付加体は下りのエスカレーターに落ち葉があると想像してもらいその落ち葉が最後に床とエスカレーターのところに集まりまとまる。エスカレーターが海底のプレート、床が大陸、落ち葉が海底に沈んでいる溶岩やサンゴなどでこのまとまった落ち葉の部分が付加体だ。」と一緒に参加していた皆さんもほぼ同意見でした。

しかし、実際に案内してみると付加体という言葉だけは知っているという方が大半でした。日本列島は付加体でできているといわれても、「付加体って何？ どういうこと？」と疑問が浮かぶと思います。付加体の成り立ちを理解してもらわなければ、下仁田町に海にあったはずの貝化石がなぜあるのか理解していただけるはずありません。

2018年10月、苗場山麓ジオパークの再認定審査をジオパーク推進係の関谷さんに同行し見学させていただきました。その道中、付加体をわかりやすく説明するにはどうしたらよいのか、ガイドが簡単に携帯できる物はないのかなど、ずっと話し合いましたが、よい方法は見出すことができませんでした。

それから、頭の片隅にはいつも付加体があり、折に触れ本を開き、付加体の成長の図を眺めていましたが、ただ眺めているだけで妙案も浮かばず「諦めるしかないのでは」と考え始めていました。そんな時、テレビで地震速報が流れ、地震のメカニズムを説明するためのアニメーションを見たときに、ふとプレートの動きをリボンで再現できないかと思い立ちました。家中を探し、手芸材料の入っている箱をひっくり返しリボンを見つけました。しかしどのくらいの長さがベストなのか、プレート以外の物はどうするのか考えはまとまりませんでした。

ある日青岩公園で石の観察をしながら手のひらに乗った小石を見たときにこの小石を海底の溶岩やサンゴなどに見立ててリボンの上に載せれば、プレート運動がわかりやすく説明できるのではと思いました。

そして手のひらを海底、リボンをプレート、小石を溶岩やサンゴなどに見立てたガイドグッズが完成しました（第1図）。ガイドはリボンを携帯するだけで参加者にプレートの動きや付加体の成り立ちが説



第1図 プレートの沈み込みに見立てたガイドグッズ

明でき、実際に各自が体験することで「プレートは動いている」「地球は活動している」ということを理解していただけたと思えました。

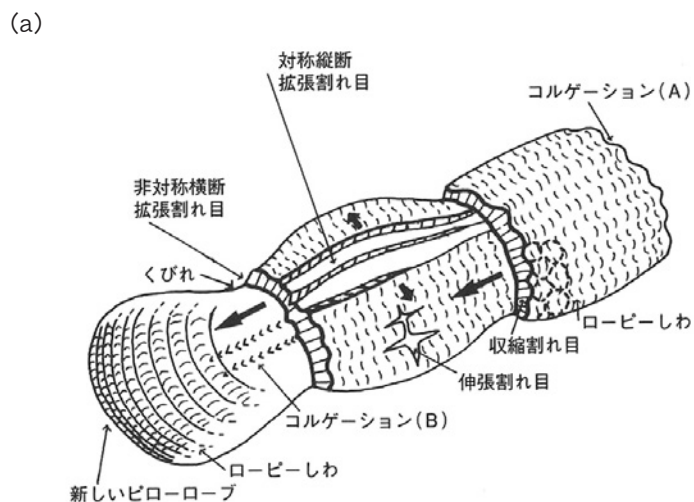
ガイドグッズ作成-2

そしてもうひとつ青岩公園の^{あいのせ}新合之瀬橋の下には海底火山から溶岩が流れ出たときにできる「枕状溶岩」の転石があります（第2図）。自然学校の先生によれば「どこから来たのか不明」「この場所にあるのは素晴らしい発見」とのことです。

私は、この枕状溶岩の形成の仕組みもわかりやすく解説できないかと思い材料探しを始めました。100円ショップや雑貨屋など、時間があれば歩き回っていました。目に留まったのはソフトゴムボールとスライムでした。こどものおもちゃですべてがそろい、これもまた携帯が容易にできます。

ゴムボールは海水で冷やされ表面だけが固まった溶岩、ゴムボールの中のスライムがまだ冷え固まらない溶岩です。ゴムボールに少しの切れ目を入れゴムボールをギュッと握ると中のスライムが出てきます。枕状溶岩と同じような形になりました。これには皆さん興味をもってくださり、手に取って実際に試してみる人もいます。この体験を機に、下仁田町に地球の不思議に少しでも興味を持ってもらえればうれしいと思います。

わたしにとってジオパーク活動は「脳トレ」だと思っています。パズルを解くようにいろいろな疑問に対し一つ一つピースを埋めて回答を導き出せるよ



(b)



第2図 (a) 枕状溶岩の模式図, Yamagishi (1985) より引用

(b) 青岩公園の枕状溶岩の転石と枕状溶岩形成をイメージしたガイドグッズ

う、これからも楽しくジオパークの活動を続けて行きたいと思っています。そして一人でもジオパークに興味を持って一緒に活動して下さる方が増えることを願っています。

最後に、いつも稚拙な質問ばかりのわたしに、やさしく丁寧に接して下さる下仁田自然学校の先生、ジオパーク推進係、ジオパークの会の皆さんあ

りがとうございます。もう少しの間おつきあいよろしく願います。

文 献

Yamagishi, H., 1985. Growth of pillow lobes: Evidence from pillow lavas of Hokkaido, Japan, and North Island, New Zealand. *Geology*, 13, 499-502.

